

平成23年度 中学生の「税についての作文」優秀作品紹介

11月12日(土)玉名市の白鷺荘別館で、中学生の「税についての作文」の表彰式が行われました。今年度は荒尾・玉名地域の16校の中学校から2,733点応募があり、和水町から下記のとおり7人が受賞されました。

- ①国税庁長官賞 古閑原あずさ(三加和中)
- ②全国納税貯蓄組合連合会優秀賞 真崎菜々美(三加和中)
- ③南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞 有富 郁(三加和中)
- ④南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞 伊藤 岐華(三加和中)
- ⑤玉名税務署長賞 竹下 真里(三加和中)
- ⑥和水町長賞 竹下 実花(三加和中)
- ⑦和水町教育長賞 平野 菜那(菊 水 中)

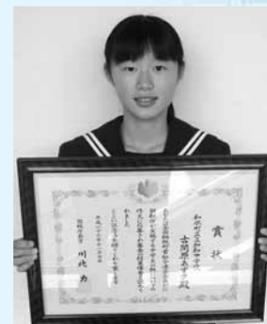
※他の4人の受賞者の作品は1月号に掲載予定です。

国税庁長官賞

助け合いの心と税

三加和中学校 二年

古閑原 あずさ



私が卒業した小学校には、「もやい館」という名の体育館があります。もやいとは漢字で催合と書き、共同で一つの物を使ったり、協力して一つの仕事をするという意味です。実際、地区の人たちがバレーボールなどをしていらつしやいました。日本では米作りを通して共同で物事を行う必要が昔からあり、助け合って生きてきたと聞いたことがあります。このもやい、助け合いの精神は今の税金制度のもとになっていると思います。

先日、アフリカから来ている留学生のホストファミリーになりました。筑波大学で経済学を学んでいるジョン・バーノン・キカピさんというウガンダの方でした。彼はアフリカの貧困を減らしたいと日本政府奨学金制度を利用して勉強しています。ユニセフ主催のアフリカの子どもの日というイベント参加のために熊本に来られました。

インターネットで調べてみると、このイベントを主催しているユニセフは税金と関係しているというのを知りました。ユニセフは国連の一つの機関で第二次世界大戦の犠牲になった児童の救済を目的として設立され、個人の募金と各国政府の任意拠出金で運営されています。二千八年度、日本は百五十五・七百万アメリカドルを拠出しています。こんな日本もユニセフに援助されていた時期があります。戦後、粉ミルクや子供用衣類など

の支援を受けていました。その後日本は経済成長しユニセフを支援するドナー国となったそうです。今回の東北大地震でも多くの国が日本に義援金を送ってくれました。その中には経済状態が大変な国もあったと聞きます。これまで日本がやってきた、経済的援助や自衛隊の復興支援への恩返しということを知り、嬉しくなりました。

キカピさんが受けている奨学金や自衛隊、ユニセフへの拠出金も税金でまかなわれています。このように税の使い道は様々で色々な所で役に立っているのです。日本国内だけでなく、税は国と国を結ぶ大切な役割も果たしています。しかし日本は今、税収だけではまかなえない状況であると租税教室で聞きました。だから消費税が十パーセントに上がっても仕方がないことだと思います。実際、ウガンダの消費税は十七パーセントで日本よりも多いことが分かります。一人一人が税を少しかかり返すことで、誰かのために私たちにもしっかり返ってきます。誰かが困っている時、みんなで助け合うしくみ、それが税だと思えます。もやいの気持ちを大切に、きちんと納税し、住み良い社会を作りたいです。

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

税を納める気持ち

三加和中学校 三年 真崎 菜々美



「大丈夫ですよ。私たちはこれが仕事ですから。」その言葉が、今でも記憶に残っている。3ヶ月程前の朝、目が覚めると祖母と母の騒いでいる声が聞こえてきた。何事かと思いついてみると、数年前に脳卒中になった祖父がフラフラ歩いて、家族が救急車を呼んでいた。最終的には救急車で運ばれることもなく、大事には到らなかった。そして隊員の方が帰られる時、祖母がお礼などを言っていた。私はそれを聞いていたのだが、申し訳なさそうにしている祖母に、前文のような声をかけて下さったのだ。始めは「優しい人たちだな。」くらいしか思わなかった私だったが、よく考えてみるとこれも税金のおかげだったのだ。もし税金がなければ、きっと救急車などはお金をはらって呼ばなければならなかっただろう。そう思い、私は税金に深く感謝した。

それまで2回も租税教室を受けていた私は、税の大切さが分かっていながらも税が無くなったとしても困ることになるといふ事を学び、税はなくてはならないものだと感じていた。今でももちろんその気持ちは変わらないが、身近に税に関する経験をすると、もっと税の大切さが分かる。

今回3回目の租税教室では、納税への気持ちも変わった。今までは消費税が上がるという事を聞いても、嫌という思いがあった。しかし税理士の方の話や聞き、その消費税増加は自分達のためなんだと分かることが出来た。そしてこんな言葉も印象に残っている。

「税は取られるものじゃなく、自ら気持ちよく納めるもの。」この言葉が私の税へのイメージを大きく変えた。やはり税として消費税をとられるのは嫌と思っていたが、これからの為に気持ちよく納めようと思うようになった。暗いイメージが増えるイメージへ変わったのだ。

租税教室を通して増税も必要ではないかと考えるようになった。スウェーデンなどの他国の人は日本よりもっと多くの税を納めているそうだが、生活に不安がなく、住みやすいそうだ。税が増えることは苦しい事や嫌なことではなく、国を豊かにする為に大切なことなのだ。あとはこの税金を国が、国を豊かにするために使うことが大切だ。そして私は思う。税を嫌々納める事なく、気持ちよく納められる人になりたい。

南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞

私が思う税金とは

三加和中学校 三年 有富 郁



近頃、ニュースで、消費税を二〇一五年度までに十パーセントに引き上げるといふ話をよく耳にします。段階的に引き上げると言われていますが、増税されるという事実には変わりありません。多くの国民は、消費税を増税することに對して、怒りや疑問を感じているでしょう。私も、租税教室があるまでそう思っていました。税が大切だということも、国民が納税しないと国が成り立たないということも知っていました。でも、決して景気が良いとは言えないこの時代に、なぜ、増税しないといけないのか、疑問に思っていました。

でも、租税教室に来られた税理士の方のお話で、増税してもかまわないという思いが出てきました。それはなぜかという点、高齢化が進み、年金や医療費など、社会保障のためにかかる費用が増えたからです。お年寄りの方の負担を増やさないためにも、将来の日本を背負う若者の負担を増やさないためにも、国会でこの決断がされたんだと思いました。増税は、国民の負担を増やすように思われているかもしれませんが、でも、実際は、国民の負担を減らすことにつながっているのです。とても良いことだと思えました。消費税が増税されることによって社会保障が続けられるのなら、払う税金が増えてもかまわないと思えました。

そんな私にも、税のありがたさを実感する出来事がありました。普段のように夕食の仕度を手伝っていた、昨年十一月の夜のこと。こたつで寝転んでいる祖母は起こそうとしても起きません。家族みんな起こしてみても、祖母は意識が遠のいているようでした。とても苦しそうだだったので、母が救急車を呼びました。すぐに救急車が来て、隊員の方々によって祖母を病院へ運んでいただきました。おかげで、祖母は意識を取り戻し、一週間ほどの入院で済みました。一時はどうなるかと思いましたが、救急車と救急隊員の方々の対応により、祖母は一命をとりとめることができました。本当に感謝しています。もし、税金がなかったら、急病人は誰が助けるのでしょうか。救急車や消防車がかかるでしょうか。また、高速道路がなかったら、大きい病院で治療を受けた人に乗せた救急車は、何時間もかけて病院へ行かなければならないでしょう。想像できないくらいいたくさんの命が救われ、少しでも長く生きることができたことでしょう。その命を救うために、私たちの納めた税金の一部が使われているのです。納めた税金が、全て、自分の身に返ってくるわけではないかもしれませんが、でも、私が納めた、たった五パーセントの消費税が、どこかで誰かのために役立っていると思うと、私は税を納めることを誇りに思います。